

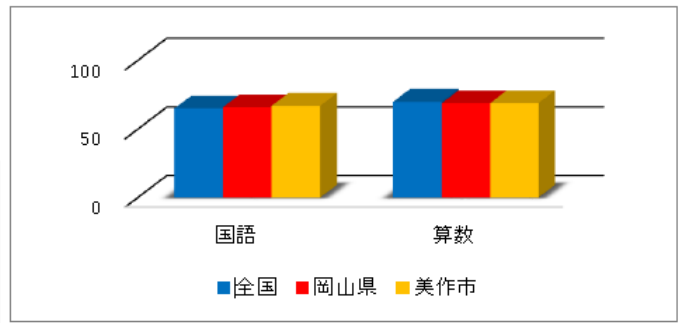
令和3年度全国学力・学習状況調査 小学校版【美作市 結果・概要】

美作市教育委員会 学校教育課

○平均正答率(小6) 割合(%)

	国語	算数
全国	65	70
岡山県	66	69
美作市	67	69

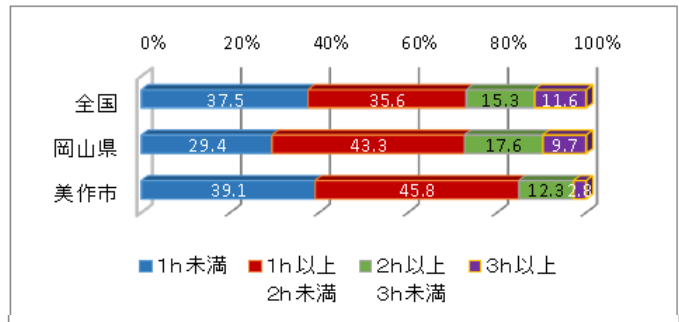
- ・国語は、全国、県平均を上回り、算数は全国平均を下回った。
- ・国語の漢字、文の中における主語と述語の関係を捉えることができるかをみる設問で、正答率が全国平均を上回り、基礎・基本を重視した指導の成果が表れている。
- ・活用力に課題が見られ、学んだことを関連づけて考えたり説明したりする機会を授業の中で設けていく必要がある。



○平目の家庭学習時間(小6) 割合(%)

	1h未満	1h以上 2h未満	2h以上 3h未満	3h以上
全国	37.5	35.6	15.3	11.6
岡山県	29.4	43.3	17.6	9.7
美作市	39.1	45.8	12.3	2.8

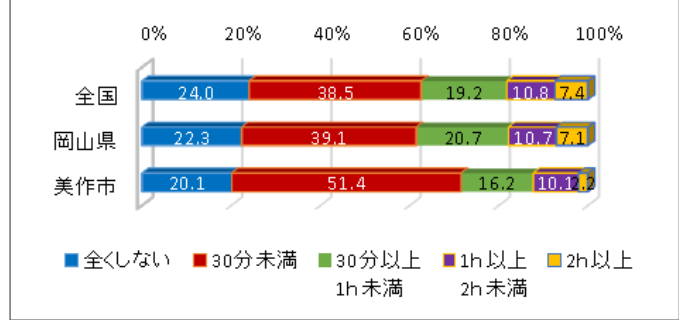
- ・家庭学習時間は昨年度(5年生時実施県調査結果)と比較すると、1時間未満の割合が11ポイント増加した。
- ・1時間未満の割合は全国、県と比べ高い数値である。学校全体での取組と家庭・地域と連携した具体的な取組が必要である。



○平目の読書の時間(小6) 割合(%)

	全くしない	30分未満	30分以上 1h未満	1h以上 2h未満	2h以上
全国	24.0	38.5	19.2	10.8	7.4
岡山県	22.3	39.1	20.7	10.7	7.1
美作市	20.1	51.4	16.2	10.1	2.2

- ・読書の時間については、「全くしない」という児童の割合は全国、県と比較すると少なく、30分未満の割合が多い。
- ・1時間以上の割合が全国、県の数値と比較すると少ない。
- ・家庭と連携した読書の取組の強化が必要である。



【全国学力・学習状況調査において明らかになった成果と課題】

- ・国語・算数における基礎的な問題の正答率の全国比が改善してきた。
- ・活用力を問う記述式問題について、無回答率が高い問題も見られた。問題を正確に素早く読み取ったり、根拠を示して自分の考えを書いたりすることが引き続き課題である。思考力や判断力、表現力を高めるため、言語活動を重視した授業づくりへの改善を続けていく必要がある。
- ・「国語の授業の内容がよくわかる」「算数の授業の内容がよくわかる」という質問で「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」という割合は全国平均を上回っている。
- ・家庭学習時間は1時間未満の割合が全国・県と比較すると多く、昨年度よりも減少傾向である。学校で家庭学習の計画を立てたり、家庭学習時間の記録を取ったりするとともに家庭と連携しながら、家庭学習習慣の定着のための取組が必要である。
- ・「将来の夢や目標をもって、いますか」という質問で、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」という割合は全国平均を上回っている。

【課題に応じた改善のポイント】

○授業改善の推進

- ・主体的・対話的に学ぶ活動を工夫し、学びの深まりを実感させる授業づくり
 - 「岡山型学習指導のスタンダード」に基づいた授業5の視点に加え、「岡山型学習指導のスタンダード増補版 授業改善『一歩先へ』」に示されている児童生徒が主役となる授業づくりと全体を見通した単元計画を行う視点を重点として、授業改善を進める。
 - 書く活動を授業や補充学習、家庭学習で積極的に取り入れる。また、根拠を示しながら書いたり条件に合わせて説明したりする機会を授業に取り入れる。

・基礎基本の徹底の継続

- 学習内容を復習する時間や補充学習の時間を確保するとともに、家庭学習で反復練習を行い、児童のつまづきを解消する。
- 学校独自のテストや市が実施する検定、県が実施するテストで学力の定着状況を確認し、つまづきを解消する。
- 一人一台端末を活用した「個別最適化された学びと協働的な学び」の場を研究・実践する。

・ユニバーサルデザインを意識した目的と活動が明確な授業づくり

- ・家庭学習につなげる授業づくり(復習、予習、自主学習の充実)と家庭学習の出し方(質と量)の工夫

○落ち着いた学習環境づくりと学ぶ意欲の向上

- ・人間関係づくりを大切にした学級集団づくり、ユニバーサルデザインを意識した学習環境の整備

○補充学習の充実(朝の学習、放課後学習、問題データベース、タブレットドリル活用)

○生活習慣、学習習慣の確立

- ・家庭学習のスタンダード、家庭学習の手引きに基づいた取組の充実(例:自主学習ノートの活用、手本となるノートの紹介等、成長を実感させる評価の工夫)

※結果分析(○できている ●できていない)

<学力調査>

【国語】

- 思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使うことや、自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考えることが正答率100%でした。
- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことが、ほぼ正答率100%でした。
- 文の中における主語と述語との関係を捉えることが正答率100%でした。
- 目的や意図に応じて、理由を明確にししながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することの正答率が全国平均より 2.1ポイント低いです。授業の中で、理由や根拠を意識しながら書く活動をする必要があります。

【算数】

- 速さと道のりを基に、時間を求める式に表すことができることが正答率100%でした。
- データを二次元の表に分類整理することができることが正答率100%でした。
- 帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述できることが全国平均より 38.9ポイント高いです。
- 複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べることが全国平均より 18.0ポイント低いです。操作活動を通して、量感をともなって理解することを大切にします。
- 集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきかを判断することが全国平均より 10.3ポイント低いです。算数科だけでなく様々な教科で、データの意味や表す内容などを学習することで、データの有効な活用について理解を深めます。

<学習状況調査>

- 90.9%の児童が、将来の夢や希望を持っています。
- 算数の授業の内容がよく分かる人が90%を超えています。
- 家で、自分で計画を立てて勉強をしている人が80%を超えています。
- 自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている人が、全国平均と比べて38.8ポイント低いです。スモールステップで目標を設定して、最後までやり遂げる経験を積みさせます。
- 難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している人が、全校平均よりも 35.4ポイント低いです。小さな成功体験を積み重ねることで、失敗を恐れず挑戦することの大切さを感じさせます。

※学校としての対応・目標

- ◎「土居小タイム(放課後学習)」を毎日設け、国語や算数の基礎基本と共に、発展問題にも取り組みます。
- ◎授業では、自力解決やペア・グループ学習の時間を設定し、互いの考え方を伝え合うことで、考え方が深まるようにしていきます。
- ◎読書では、自分の思いや願いを大切に本を選び、一人読みと共に親子読書の推進に努めます。
- ◎「漢字検定」「計算検定」を各学期末に実施して、基礎基本の定着を図ります。
- ◎家庭と連携し、「家庭学習の手引き」「家庭学習がんばりカード」を活用して「10分×学年+10分」の家庭学習を児童が主体的にできることを目指します。
- ◎携帯電話やスマートフォン、タブレットなどについて、学級指導を行ったり、学級懇談や人権PTAなどで保護者の方と共に考える機会を持ったりして、よりよい使い方ができるように取り組みます。

以上のような学校の指導意図をご理解いただき、ご家庭でもご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。